大学・高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	G134110110035	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	呉工業高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	呉工業高等専門学校　先端情報技術を活用し未来社会モデル「Society5.0」を牽引する高度情報専門人材の育成
学校種	高専	都道府県	広島		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和7年度			令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①４月　改組後の教育カリキュラムの実施準備 ②４月　自治体（県・市）、企業、大学との連携の検討 ③７月　情報棟の新設に係る検討（基本設計，什器類含む） ④10月　数理・DS・AI関係情報教育の先行実施（一部） ⑤10月　改組に関わる学外への説明 ⑥11月　情報棟の新設に係る入札公告 ⑦12月　情報棟の新設に係る設計（複数年契約）	①４月　改組後の教育カリキュラムの実施準備 ②４月　自治体（県・市）、企業、大学との連携の検討 ③７月　情報棟の新設に係る検討（基本設計，什器類含む） ④10月　数理・DS・AI関係情報教育の先行実施（一部） ⑤10月　改組に関わる学外への説明 ⑥8月　情報棟の新設に係る設計入札公告 ⑦10月　情報棟の新設に係る設計（複数年契約）		
令和8年度	４月　電気知能情報工学科設置に係る事前相談 ６月　電気知能情報工学科設置に係る設置報告予定		令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月　情報棟の建設工事（入札公告含む，複数年契約） ②４月　継続：改組後の教育カリキュラムの実施準備 ③４月　継続：自治体（県・市），企業，大学との連携の検討 ④４月　追加：数理・DS・AI関係情報教育の先行実施（一部） ⑤４月　継続：改組に関わる学外への説明 ⑥２月　情報棟及び学内の情報設備の設置			
令和9年度	４月　電気知能情報工学科設置（入学定員40名）		令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月　改組と新カリキュラム開始 ②４月　情報棟の運用開始 ③４月　自治体（県・市），企業，大学との連携開始 ④４月　数理・DS・AI関係情報教育の完全導入 ⑤４月　情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目情報ネットワーク担当） ⑥４月　継続：改組に関わる学外への説明 ⑦４月　情報棟及び学内の情報関係設備の整備			
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月　継続：自治体（県・市），企業，大学との連携 ②４月　数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③４月　情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員２名及び技術職員1名の採用） ④４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目情報ネットワーク担当） ⑤４月　継続：改組に関わる学外への説明 ⑥４月　継続：情報棟及び学内の情報関係設備の整備			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月　継続：自治体（県・市），企業，大学との連携 ②４月　継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③４月　継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員２名及び技術職員1名の採用） ④４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目情報ネットワーク担当） ⑤４月　継続：改組に関わる学外への説明 ⑥４月　継続：情報棟及び学内の情報関係設備の整備			
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月　継続：自治体（県・市），企業，大学との連携 ②４月　継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③４月　継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員２名及び技術職員1名の採用） ④４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目情報ネットワーク担当） ⑤４月　継続：改組に関わる学外への説明 ⑥４月　継続：情報棟及び学内の情報関係設備の整備			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月　継続：自治体（県・市），企業，大学との連携 ②４月　継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③４月　継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員２名及び技術職員1名の採用） ④４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目情報ネットワーク担当） ⑤４月　継続：改組に関わる学外への説明 ⑥４月　継続：情報棟及び学内の情報関係設備の整備 ⑦４月　情報教育のための教員確保（非常勤が一部の授業及び実験科目を担当）			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月　継続：自治体（県・市），企業，大学との連携 ②４月　継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③４月　継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当技術職員1名の採用） ④４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目情報ネットワーク担当） ⑤４月　継続：改組に関わる学外への説明 ⑥４月　継続：情報棟及び学内の情報関係設備の整備 ⑦４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が一部の授業及び実験科目を担当）			
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月　継続：自治体（県・市），企業，大学との連携 ②４月　継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③４月　継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当技術職員1名の採用） ④４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目情報ネットワーク担当） ⑤４月　継続：改組に関わる学外への説明 ⑥４月　継続：情報棟及び学内の情報関係設備の整備 ⑦４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が一部の授業及び実験科目を担当）			
令和16年度			令和16年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月　継続：自治体（県・市），企業，大学との連携 ②４月　継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③４月　継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当技術職員1名の採用） ④４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目情報ネットワーク担当） ⑤４月　継続：改組に関わる学外への説明 ⑥４月　継続：情報棟及び学内の情報関係設備の整備 ⑦４月　継続：情報教育のための教員確保（非常勤が一部の授業及び実験科目を担当）			

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	呉工業高等専門学校

2.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。

⑧ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。

⑨ 計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑩ 国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑪ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑫ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。

上記項目の①～⑪の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
すべての項目が要件を満たしている											

①～⑪の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑫については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑫文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	認定を受けている

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
地域との連携強化や地域社会の発展に寄与することを目的として、令和5年８月に「呉工業高等専門学校地域コンソーシアム」を設立した。地域企業等との交流企画等を実施し、本校の教育・研究リソースを地域社会に還元することで、まちづくりの推進を目指している。さらに、令和６年2月に呉市及び公益財団法人くれ産業振興センターと、産学官交流及び地域産業の活性化に向けた協定を締結した。呉地域における産学官交流及び地域産業の活性化という目的の達成のため、「地域企業との交流拡大」「新事業創出の支援」「人材育成」の３項目について連携・協力事項を定めており、学内施設の学外提供、交流企画の実施及び地元企業への長期インターンシップの推進等を通して、連携・協力事項の具現化を目指している。新設学科では、約100の地元企業で構成される本校地域コンソーシアム加入企業に対して、DXやAIに関する意見交換をする場を設けるなど、多方面にわたる地域連携の強化を予定している。さらに、PBL型の授業として、学科横断型の課題探求型授業「インキュベーションワーク」を実施しており、今後、地域連携コンソーシアム加入企業の課題解決に先端情報技術を活用し、自治体や企業と連携し、学生の教育に取組む計画である。現在、活動の一例として、過疎化が進み利用者が少なくなった地域のバスの運行状況をスマートフォンで確認できるシステムの開発を広島大学と共同で実施している。新設学科では、このような活動を先端情報技術であるDXやAIの技術などを活用し、地域の自治体や企業等と連携して課題解決に取り組む予定である。	地域との連携強化や地域社会の発展に寄与することを目的として、令和5年8月に「呉工業高等専門学校地域コンソーシアム」を設立した。地域企業等と交流企画等を実施し、本校の教育・研究リソースを地域社会に還元することで、まちづくりの推進を目指している。さらに、令和６年2月に呉市及び公益財団法人くれ産業振興センターと、産学官交流及び地域産業の活性化に向けた協定を締結した。呉地域における産学官交流及び地域産業の活性化という目的の達成のため、「地域企業との交流拡大」「新事業創出の支援」「人材育成」の３項目について連携・協力事項を定めており、学内施設の学外提供、交流企画の実施及び地元企業への長期インターンシップの推進等を通して、連携・協力事項の具現化を目指している。新設学科では、約100の地元企業で構成される本校地域コンソーシアム加入企業に対して、DXやAIに関する意見交換をする場を設けるなど、多方面にわたる地域連携の強化を予定している。さらに、PBL型の授業として、学科横断型の課外探求型授業「インキュベーションワーク」を実施しており、今後、地域連携コンソーシアム加入企業の課題解決に先端情報技術を活用し、自治体や企業と連携し、学生の教育に取り組む計画である。令和7年6月9日に本校第１会議室にて、呉市産業部・桧垣参事、同部・今井副部長、商工振興課・久保課長、同課・一柳グループリーダー、企画部・倉員部長、企画課・山本課長と本校餘利野校長、河村教務主事、林地域実践教育センター長 、井上改組ワーキンググループ主催、毛利総務課長、寶井学生課長にて上記の実施へ向けた打ち合わせを実施し、令和8年度より呉市に立ち上げられる予定のIT企業、ラキール呉との連携を推進していくこととなった。令和7年9月25日、ラキール呉の松本社長が来校し、今後の連携について、まずはインターンシップや改組後の実践的な実習教材提供など、高度情報人材育成を連携して行なっていくこととなった。具体的な計画策定は令和8年度以降も継続して協議する予定である。	特記事項なし。

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
既設学科では、本校校長が会長を務める「アガデミア」（阿賀学園地域教育連携協議会）の枠組みを通じて、呉市立阿賀小学校・呉市立阿賀中学校・呉市立呉高等学校等、近接７教育機関と学生連携活動や公開講座実施により活発な連携活動を行なってきた。また、小・中学生とその保護者に電気電子工学の面白さを体験してもらい、今後の進路の参考にしてもらうため、公開講座「エジソンスクール」を年６回開催している。新設学科設置後は、これらの初等中等教育機関の情報担当教員に数理・データサイエンス・AI等の教育方法を共有する新たな研究会を設け、デジタルツインやAI基礎講座などの高度情報専門科目に関する公開講座などを「エジソンスクール」と同じ形式で「AIによる画像処理」や「AIによる自然言語処理」など複数のテーマを企画立案し、実施していく。 また、毎年12月に小・中学生に科学の楽しさとものづくりの醍醐味を実体験してもらうイベント「クリスマサイエンスショー」を開催している。課題探求型授業「インキュベーションワーク」活動の一環として、様々な学生主体のブースを開設し、令和５年度は約 650 名の方にお越しいただいた。新設学科では先端情報技術に基づくAIなどのテーマをインキュベーションワークで立ち上げ、小・中学生にAIの仕組みやその活用方法などを体験してもらう予定である。さらに令和６年度に試験的に実施した東広島市教育委員会理科部会での模擬授業及び意見交換を踏まえ、小学校理科教員への啓蒙、理科教員を通じた小中学生へのアピールも継続する。	既設学科では、本校校長が会長を務める「アガデミア」（阿賀学園地域教育連携協議会）の枠組みを通じて、呉市立阿賀小学校・呉市立阿賀中学校・呉市立呉高等学校等、近接７教育機関と学生連携活動や公開講座実施により活発な連携活動を行なってきた。また、小・中学生とその保護者に電気電子工学の面白さを体験してもらい、今後の進路の参考にしてもらうため、公開講座「エジソンスクール」を年６回開催している。新設学科設置後は、これらの初等中等教育機関の情報担当教員に数理・データサイエンス・AI等の教育方法を共有する新たな研究会を設け、デジタルツインやAI基礎講座などの高度情報専門科目に関する公開講座などを「エジソンスクール」と同じ形式で「AIによる画像処理」や「AIによる自然言語処理」など複数のテーマを企画立案し、実施していくための準備を行なった。 また、毎年12月に小・中学生に科学の楽しさとものづくりの醍醐味を実体験してもらうイベント「クリスマサイエンスショー」を開催している。 課題探求型授業「インキュベーションワーク」活動の一環として、様々な学生主体のブースを開設し、令和7年度は約 650 名の方にお越しいただいた。新設学科では先端情報技術に基づくAIなどのテーマをインキュベーションワークで立ち上げ、小・中学生にAIの仕組みやその活用方法などを体験してもらう予定で計画を進めている。さらに令和６年度に試験的に実施した東広島市教育委員会理科部会での模擬授業及び意見交換を踏まえ、小学校理科教員への啓蒙、理科教員を通じた小中学生へのアピールも継続する予定である。さらに、令和7年10月に呉市立横路中学校3年生を対象に「AIの歴史」と題してAIに関する公開講座を実施した。来年度も継続する予定である。	特記事項なし。

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保に向けて：インキュベーションワークの１つの女子学生グループ『呉高専MECA女養成プロジェクト』が指導教員の下、高専機構主催の「高専GCON」(高専GIRLS SDGs×Technology Contest)への毎年の出場（令和６年度５チーム出場）や、女子学生の志願者確保へ向けた広報活動など活発な活動を行なっている。新設学科においてもこれらの活動を継続し、さらに発展させていく。 社会人学生の確保に向けて：社会人へ向けたリカレント教育として、公開講座や地元企業に講師として「シーケンス制御講座」や「電験三種講座」を開催した。これらに加え、新設学科ではスタートアップ教育のために整備した環境を活用し、「デジタルツイン」のための講座や、AIに関する社会人講座などを充実させていく。また、転職を希望している卒業生への先端情報技術のリカレント教育も検討している。 留学生の確保に向けて：本校では、平成元年から留学生を受け入れている。種々の取組みの中の一例として、平成27年度から「アジアDAY」を実施している。中国地区の高専の留学生や地域の方々が参加し、アジアの文化を体験するイベントを開催している。オンラインでの交流も積極的に活用し、世界各国の高校・大学との交流イベントも数多く開催している。アメリカ、マレーシア、メキシコ、シンガポール、タイ、ヨルダン、トルコ、台湾、韓国の学生や技術者と交流を行なっている。新設学科においてもこれらの活動を継続し、さらに発展させていく。	女子学生の確保に向けて：インキュベーションワークの１つの女子学生グループ『呉高専MECA女養成プロジェクト』が指導教員の下、高専機構主催の「高専GCON」(高専GIRLS SDGs×Technology Contest)への毎年の出場（令和7年度６チーム出場）や、女子学生の志願者確保へ向けた広報活動など活発な活動を行なった。新設学科においてもこれらの活動を継続し、さらに発展させていく予定である。 社会人学生の確保に向けて：社会人へ向けたリカレント教育として、公開講座や地元企業に講師として「シーケンス制御講座」や「電験三種講座」を開催した。これらに加え、新設学科ではスタートアップ教育のために整備した環境を活用し、「デジタルツイン」のための講座や、AIに関する社会人講座などを充実させていく予定で準備を進めている。また、転職を希望している卒業生への先端情報技術のリカレント教育も検討している。 留学生の確保に向けて：本校では、平成元年から留学生を受け入れている。種々の取組みの中の一例として、平成27年度から「アジアDAY」を実施しており令和7年度も実施した。中国地区の高専の留学生や地域の方々が参加し、アジアの文化を体験するイベントを開催した。オンラインでの交流も積極的に活用し、世界各国の高校・大学との交流イベントも数多く開催した。アメリカ、マレーシア、メキシコ、シンガポール、タイ、ヨルダン、トルコ、台湾、韓国の学生や技術者と交流を行なった。新設学科においてもこれらの活動を継続し、さらに発展させていく予定である。	特記事項なし。

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
他大学との連携については、近年構築された呉高専専攻科から広島大学大学院（先進理工系科学研究科）に進学するための「広島大学・呉高専連携大学院進学制度」を活用する予定である。本制度は、呉高専専攻科１年生が指導教員を介して広島大学の教員との共同研究に参加し、研究活動における長期的な総合的能力評価に基づき、翌年の大学院推薦入試の受験資格が与えられる。大学研究室の一員としてこのような研究活動を継続しながら、当該研究室に進学することを主眼としている点がこの制度の大きな特長である。令和5年1月に博士課程前期推薦入試に係る連携協定を締結のうえ、両機関の教員の共同研究に基づく学生と研究室とのマッチング制度化に関して合意がなされた。令和6年7月には本制度による合格者3名が発表されるに至り、11月に両機関の関係者が集まり本制度の促進式を挙行した。共同研究は、この2年間で10件まで拡大し、令和7年度は8名の専攻科生がこれに続く予定である。新設学科では、教員間の密接な協力関係に基づく本制度を活用し、主として広島大学情報科学部、工学部の研究室と共同して以下を実施する。①従来の共同ゼミを拡張し、教育・研究の質の向上 ②高専教育に携わる博士人財の育成 ③本事業遂行のための先端情報教育の実施 ④本制度の他高専への横展開。また、この活動に加えて、高専間連携としては、すでに本事業に採択されている石川高専が実施しているデジタル人材リテラシーや情報セキュリティ関係等についての連携も検討している。	他大学との連携については、近年構築された呉高専専攻科から広島大学大学院（先進理工系科学研究科）に進学するための「広島大学・呉高専連携大学院進学制度」を活用する予定である。本制度は、呉高専専攻科１年生が指導教員を介して広島大学の教員との共同研究に参加し、研究活動における長期的な総合的能力評価に基づき、翌年の大学院推薦入試の受験資格が与えられる。大学研究室の一員としてこのような研究活動を継続しながら、当該研究室に進学することを主眼としている点がこの制度の大きな特長である。令和5年1月に博士課程前期推薦入試に係る連携協定を締結のうえ、両機関の教員の共同研究に基づく学生と研究室とのマッチング制度化に関して合意がなされた。令和6年7月には本制度による合格者3名が発表されるに至り、11月に両機関の関係者が集まり本制度の促進式を挙行した。共同研究は、この2年間で10件まで拡大し、令和7年度は8名の専攻科生がこれに続いた。新設学科では、教員間の密接な協力関係に基づく本制度を活用し、主として広島大学情報科学部、工学部の研究室と共同して以下を実施する予定である。①従来の共同ゼミを拡張し、教育・研究の質の向上 ②高専教育に携わる博士人財の育成 ③本事業遂行のための先端情報教育の実施 ④本制度の他高専への横展開。また、この活動に加えて、高専間連携としては、すでに本事業に採択されている石川高専が実施しているデジタル人材リテラシーや情報セキュリティ関係等についての連携も検討している。	特記事項なし。

⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和4年度から電気情報工学科を対象として数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）を先行実施し、令和5年度から全学科を対象として実施しており、令和5年度にリテラシーレベルを認定されている。この認定を受け、本支援事業の申請の検討にあわせて、応用基礎レベルの認定に向けた議論を開始している。 新設学科の電気知能情報工学科が、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）を令和9年度に申請する計画である。	令和4年度から電気情報工学科を対象として数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）を先行実施し、令和5年度から全学科を対象として実施しており、令和5年度にリテラシーレベルを認定されている。この認定を受け、本支援事業の申請の検討にあわせて、応用基礎レベルの認定に向けた議論を開始し、令和7年度応用基礎レベルの認定を受けた。 新設学科の電気知能情報工学科が、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）を令和9年度に申請する計画である。	特記事項なし。

高等専門学校名	呉工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）	本事業対象となる学部等の個数	1

1.本事業対象となる情報系組織の状況

<内訳>

(1)

改組組織名	電気知能情報工学科

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定	届出																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-																	
		就職者数	人	-	-																	
		進学者数	人	-	-																	
		その他	人	-	-																	
		進路不明	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

高等専門学校名	呉工業高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

2.情報系組織の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度 選定	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	40	40																	
		入学者数（B）	人	40	43																	
		女子学生数	人	5	5																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	1	0																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	1.08																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	200	200																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	210	214																	
		編入学者数	人	0	0																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.05	1.07																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	39																		
		就職者数	人	10																		
		進学者数	人	29																		
		その他	人	0																		
		進路不明	人	0																		
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	6	6																	
		授業科目の単位数	単位	22	22																	

高等専門学校名	呉工業高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

3.高等専門学校全体の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	160	160																	
		入学者数（B）	人	168	167																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	1.04																	
	収容定員等	収容定員（C）	人	800	800																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数（D）	人	853	839																	
		編入学者数	人	4	2																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.07	1.05																	

4.外部資金の状況（全学）

項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
外部資金獲得額	千円	144,369																		

特記事項